

ポスター3

PP46 Piko-6 を用いたCOPDの多施設疫学研究

矢守貞昭^{1,2)}

矢守クリニック¹⁾, 名古屋市医師会COPD疫学調査グループ²⁾

目的: COPD は 2020 年には死因の第三位に位置することが予想される疾患であるが, 軽症例では自覚症状が乏しく, 未診断, 低い診断率が問題になっている。そこで名古屋市医師会協力医療機関における COPD の認知, 普及を目的に実態調査を実施した。対象: 2006 年 10 月 2 日から 15 日において 40 歳以上で外来通院または入院中の喫煙中もしくは喫煙歴のある患者。COPD と診断されているものは除く。実施方法: 同意を得た患者に COPD 質問表 (IPAG 診断・治療ハンドブック 2005 より) を記入してもらう。集計表計算 17 点以上のものは Piko-6 を用いて強制呼出をおこない FEV1/FEV6 が 0.7 未満のものを COPD の疑いありとした。結果: 参加協力が得られた 52 施設で 2200 人の登録があった (男性 1781 人 女性 404 人 不明 15 人)。集計点数 17 点以上のものが 1353 人であり, そのうち Piko-6 を用いて強制呼出を行えた患者は 1310 人, FEV1/FEV6 が 0.7 未満のものは 303 人 (男性 247 人 女性 53 人 不明 3 人) であった。全体で COPD の疑いのある例は 13.8% であり男性, 高年齢ほど割合は高くなった。